【RT-RamDA® cDNA Synthesis Kit トラブルシューティング】

現象	原因	対策
リアルタイム PCR でシグナルが出ない、あるいは遅れて検出される	RNA が分解している	・RNA が分解していないか確認してください。 ・チップやチューブなどに RNase がコンタミしていないか確認してください。 ・細胞溶解や RNA 希釈のステップは氷上にて行ってください。
	RNA の量が少なすぎる、あるいは多すぎる	本製品では、およそ 10pg から 1ng までの RNA を用いた場合に逆転写増幅反応が可能であることを確認していますが、RNA の種類や品質によっては、反応可能な RNA 量は変動する可能性があります。鋳型 RNA の添加量を増減させてください。
	反応温度が不適切	反応条件の変更は、プライマーのアニーリング効率、酵素活性、逆転写反応後の酵素失活など広範囲に影響します。反応温度は必ず本説明書に記載の条件に従って実施してください。
	逆転写反応液の添加量が多すぎる	添加量が多すぎる場合、PCR 反応が阻害される可能性があります。逆転写反応液のリアルタイム PCR 反応液への添加量は、PCR 反応液の液量の 10% 以下にしてください。

TOYOBO

＜製品の内容・技術に関するお問合せ＞
東洋紡　テクニカルライン
TEL 06-6348-3888　　FAX 06-6348-3833
開設時間 9:00~12:00, 13:00~17:00 (土日祝日、休日を除く)
E-mail: tech_osaka@toyobo.jp
[URL] https://lifescience.toyobo.co.jp/